

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4473000349		
法人名	社会福祉法人 直心会		
事業所名	望箭荘 グループホーム山国		
所在地	大分県中津市山国町守実57番地1		
自己評価作成日	令和2年7月10日	評価結果市町村受理日	令和2年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和2年9月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① 川や山など自然に囲まれた環境を生かし、季節ごとの景色を楽しんで頂ける行事や荘外散歩などを機会を多く設けている。
- ② 地元の食材を多く取り入れた食事の提供や、洗濯物干し、洗濯たたみ、掃除などご利用者の個別の状態に応じた生活支援を行い、役割を持つ事で意欲の向上や家庭で過ごしてきた生活を継続できる様に支援している。
- ③ 災害や緊急時の対応について、日々の訓練や行政、医療機関との連携を図り、早期の対応に努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・自然災害の経験を活かし、災害に備えた日々の訓練で職員全員が的確な判断と初期対応ができる体制を整えている。行政、医療機関との連携を図り、地域との協力関係も築いている。2階への避難場所に寝具用のマットを備えた。
- ・食事は、地元の食材を取り入れ事業所内で手作りしている。また、今までの生活が継続できるように、能力やできる力を活用し、利用者一人ひとりの状態に応じた生活支援に取り組んでいる。
- ・事業所の玄関先にコミュニティーバスの停留所があり、時間待ちの近隣の方々が気軽に立ち寄ってくれ、交流の場所になっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を、職員が見やすい場所へ掲示して、朝の申し送りや職員会議で唱和し、理念の浸透に努め、実践に生かすよう努めている。	理念は、事務所や廊下など見やすい場所に掲示し、朝の申し送りや会議で唱和している。新規利用者を迎えるときやケアプランの見直し時にも振り返り、実践につなぐよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	食材購入や理容室など地域のお店を利用し、地域行事への参加などで地元の方との交流が少しでも多くなる様に努めている。	地域の直売所やお店で食材を購入。地域行事に参加したり、小学校の運動会の見学、ボランティアの受け入れなど地域との交流に努めている。また近所の方が草取りや花や野菜を持ってきてくれるなど地域との関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方から認知症についての相談などあれば、居宅支援事業所や包括支援センターなどを紹介したり、利用できるサービスの簡単な説明などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方が見やすいように書類を作成したり、出た意見を職員にも周知させている。地域の診療所の先生が委員になっており、医療面からのアドバイスを頂いている。	推進会議の資料には写真等を掲載し、事業所の取り組み状況が分かりやすく作成されており、出された意見、要望は職員で話し合いサービス向上に活かしている。医師から薬の拘束についてアドバイスがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員や地域包括支援センターの職員へ空所の状況や申し込み受付など情報提供と、相談やアドバイスを頂きながら協力関係の維持に努めている。	市の担当者とは推進会議やGH連絡会で事業所の状況等の情報提供や相談、アドバイスをもらっている。またメールでのやり取りや直接窓口に行くなど市との連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に係る指針の作成と、職員への研修を実施。安易な身体拘束を行わない様に教育している。	定期的に研修を行い、身体拘束をしないケアの取組を正しく理解している。スピーチロックや医師のアドバイスにより、安易な身体拘束を行わないようケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、身体拘束・虐待防止、認知症についての研修を行い、不適切ケアを行わない様に職員教育を実施し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権や権利擁護の学習を取り入れ、制度の理解や必要時に活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約、重要事項契約を分かりやすく説明している。入居に際しての不安や要望なども聞き入れて、安心して入居して頂ける様に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プランの見直し時や面会時などで、本人やご家族に意向や要望を確認している。担当者会議を開催する事で職員への周知も図っている。	面会時等に意見や要望を言いやすいように声かけしている。また、出された意見や要望は、職員会議にて話し合い、サービスの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議やユニット会議を行い、業務に関する改善点など様々な意見を伺い、利用者様へのケアについて話し合いを行っている。また上司による個別の面談も実施している。	定期的に職員会議やユニット会議で意見や提案を聞く機会があり運営に反映させている。年1回、施設長による個別面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休取得や資格取得への支援、職員交流の食事会など実施。 上司による個別面談で希望部署の把握など。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内研修の実施と、施設外研修への参加、業務内での指導を実施している。資格取得への勤務管理や助成制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的なグループホーム連絡会へ参加し、意見交換や勉強会を実施している。お互いの施設見学など行い、参考にすることで改善や質の向上を図っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の契約やケアプラン作成時に本人、家族に要望や意見を伺っている。 事前に施設見学をして頂き、施設の雰囲気や生活の流れを把握して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時などで意見を伺い、ケアプラン作成時に反映させ、不安の解消を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談・面談時のアセスメントを実施し、必要な支援を導き出しケアプランが作成できるように努めて、サービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の業務を利用者様に押し付けず、本人の生活のペースに合わせた支援を実施している。 職員も関わりの中で、利用者様から教えて頂くこともあり、共に生活を過ごせる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係性を配慮しながら、面会や外出・外泊の支援を実施している。 利用者様から家族に対しての意見も代弁している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん、地域の方、顔見知りの方の面会も受け入れ、ご家族との外出や外泊も自由に行えるようにしている。時々ドライブなどで自宅近くへ行き、近所の方との交流を図れる機会も作っている。	友人、知人の面会も多く、墓参りやお正月、お盆時期の外泊、馴染みの理容店を利用するなどの外出支援をしている。また、ドライブで自宅近くに出かけたり、病院受診が地域の人との交流の場になっており、馴染みの関係を大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の個性を把握し、気の合う方との席の配置など考慮して、楽しい時間を過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、職員や利用者様と面会に伺ったり、退居先での生活をご家族に伺ったりして関係性を少しでも保てる様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別の面談(モニタリング)や、普段の会話の中で思いを聞き取ったり、家族に意見を伺い支援している。	モニタリング時に本人・家族に思いや意向を聞く機会を設けている。また、普段の関わりの中で、言葉や表情、しぐさなどから気づきをノートに記録し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで把握して、支援に生かしている。定期的なモニタリングの実施でサービスの評価、修正を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の生活リズム、本人の好みや趣味などを把握し、支援している。(個別援助記録の充実)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なユニット会議や担当者会議で、意見を出し合い、より良いプランの作成とサービスの向上に努めている。	6ヶ月に1回のモニタリングで本人・家族の意向を伺い、ユニット会議や担当者会議で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。また、毎日の個人記録に介護計画が書かれており、共通理解のもと、ケアができるよう工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別援助記録を見直し、24時間シートの様に時間軸で記録し、生活のリズムや個別支援を把握し、プランの変更に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や外出時の送迎、買い物希望など本人や家族が出来ない時、職員が代行して行う事で、本人やご家族の支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔から利用している病院やお店(理容室)、近所の方を把握する事で、入居していても利用でき、地域の方の支援が受けれるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や本人が希望する医療機関をかかりつけ医として、受診している。 定期受診以外でもDrの紹介などあれば他病院への受診支援を行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を継続して受診できている。訪問歯科診療や他の専門医への受診など、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関の看護師や、法人内の看護師に健診結果などを把握してもらい、必要時は相談や指示が受けれるように体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関へは普段の生活状況や既往歴、お薬手帳(薬情)の提供など行い、入院受け入れや治療がスムーズに行えるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、職員と支援内容の話し合いを行い、主治医からの説明や助言を頂き方向性を決定できる様に医療機関との連携を図っている。 (法人内施設との連携)	入所時に、重度化や終末期のあり方について説明し、同意書をもっている。重度化した場合、医師、本人・家族と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら支援している。法人内施設や医療機関と連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員に普通救命講習を受講させ、急変時の対応を迅速に行える様に体制を整えている。 施設内研修の実施を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の緊急連絡網の作成、非常召集や避難訓練の実施。消防署指導のもと総合訓練も実施し、食料備蓄など体制を整えている。	消防署立ち合いの総合避難訓練、毎月の避難訓練を実施している。水害に対しての垂直避難に備え、マットを準備し食料備蓄品も2階に備えている。また、地域の消防団との協力体制も築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症対応の研修を行い、接し方の知識や実践を行い、人格を尊重した対応が行える様になっている。施設のハードを生かした個室対応や、トイレ・入浴などのプライバシー配慮が行える様に教育、指導している。	認知症対応を実践形式で学び、一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねない対応に努めている。また、ケアの中で、言葉遣いなど気づいた点はその都度注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースに合わせて生活支援を行い、意思表示が苦手な方に対しては、職員から話しかけを行い、表情などから気持ちを読み取り、利用者本位で生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課の中で、食事や入浴、トイレの時間、その他の要望など、その方に合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝パジャマからの更衣や入浴後の衣類など本人の意向に合わせて準備している。身だしなみをの支援や、行きつけの理容室を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合わせた個別の茶わんやお箸、湯飲みを使用し、楽しみの一つにしている。利用者様の好みに合わせた、メニューや味付け、地元の食材を使用し、食事前に献立を説明している。	地元の食材を利用し、3食手作りの食事を提供している。弁当持参でドライブしたり、行事食など食べる楽しみになっている。また、一人ひとりの力を生かしながらおやつ作りや皮むき、漬物作りなど出来ることを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の記録を行っている。水分や食事摂取量低下時は、申し送りを行い、こまめな水分補給支援と、法人内の栄養士に相談し調理法や補助食品のアドバイスをもらっている。受診時に主治医にも報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、義歯洗浄、うがいの支援を行っている。義歯使用者は、毎晩、義歯洗浄剤の使用を実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別援助記録の時間軸に記録し、排泄パターンを把握している。見守りや声かけを行い、できる所は自分で行える様に支援している。	排泄パターンを把握し、個別のサインを見逃さず、見守りやさりげない声掛けを心掛けて、トイレへの誘導を促し、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施。個浴にて個別に入浴し、ゆっくりとした入浴ができる様に努めている。	週3回の入浴が楽しめるように、希望する順番や体調に合わせて対応している。また、入浴剤で温泉気分を味わってもらったり、季節を感じるように、しょうぶ湯やゆず湯にするなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の生活リズムを把握し、本人の意向に沿って支援している。 (食後すぐに休まれる方、TVを観て休む方など個別に合わせて支援)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳(薬情)を個別にファイルし、用法や容量を把握し守っている。 内服の変更などあれば申し送りを実施。 ケースに小分けしたり、声出し確認で誤薬予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の趣味や嗜好を把握し、裁縫が得意な方、塗り絵が好きな方など、それぞれに合わせた余暇活動の支援を実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブなど利用者様の希望に応えられるように支援している。 外食や遠方のドライブについては、本人の体調を配慮したり、ご家族に説明し了承を得たりしている。	日常的に外出希望を募り、散歩や買い物、ドライブに出かけている。初詣、地藏参り、地域の行事、個別に墓参りなど希望に沿った外出支援がされている。家族と外出する人もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時に、職員付き添いのもとで支払って頂くなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればその都度対応している。 年賀状や施設通信などで家族交流を維持できるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調や光の調節、リビングや居室などの掃除の徹底など気持ちよく過ごして頂ける環境整備に努めている。窓から外の景色が見える様にしたり、窓を開け、川のせせらぎが聞こえるような配慮も行っている。	共用空間は環境が整えられており、明るくシンプルで、ソファや椅子を置き、個々のペースで居心地よく過ごせるよう工夫されている。窓からは四季の彩の変化や川の流れが眺められる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや椅子を置いたり、マッサージ器などを置くことで、個別に過ごせる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室になじみのある時計や家族との写真、カレンダーなど配置し、本人の好みに合わせて自由にレイアウト出来るように支援している。	居室は清潔感があり、家族の写真や本人の作品など馴染みのある物を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどに手すり設置や、ベッドに介助バーの取り付けなど、適切な福祉用具を活用し、安全に自立した動作が出来る様に環境を整えている。		